

1. 令和 6 年度にぎわい交流館運営実績について

(1) 会議室等利用実績について

本年度は、台風による事業中止などはありませんでしたが閉館はなく、期間中の開館日数は 357 日でした。

4 月から、会議室の名称が変更となりました。それぞれ、会議室 A・B は「会議室 1」、会議室 C は「会議室 2」、会議室 D は「会議室 3」、和室は「和会議室」と名称を改めました。

また、閉館時間が 1 時間早まり 21 時までの開館となりました。それに伴い、夜間の会議室利用時間は 20 時 30 分までとなり、会議室の利用時間区分（下記の表参照）がと 1 コマ削減し、11 コマとなりました。変更点が多かったため、従来の「にぎわい交流館利用の決まり」を修正しました。

更に、2 階会議室を利用することが困難な市民活動団体へ配慮するために、団体専用事務室・会議室 3 の移転を計画・実施しました。1 階北側にあった団体専用事務室を会議室 3（定員 15 名→24 名）に、2 階南東にあった会議室 3 を団体専用事務室（10 ブース→5 ブース）にそれぞれ変更しました。

会議室の利用人数は、14,900 人で前年度と横ばいの結果となりました。利用件数は 5,116 件で前年度からは微減となりました。3 月の会議室 3・団体専用事務室の移転に伴い、部屋が使用できなかった期間が発生したことも主な原因と考えます。

利用率は全体的に昨年度より微増しており、少人数利用でも空いていれば定員の多い部屋の利用を促したり、定員を超える大人数での利用についても相談を受けたりするなど、各団体に合わせた利用の仕方が工夫できたかと考えます。夜間の利用率も前年とほぼ変わらない結果となりました。閉館時間繰り上げに伴う 1 コマの減少があり単純比較はできませんが、前年度に夜間の利用団体の実態調査を 8 ヶ月かけて行ったうえでの閉館時間変更ということもあり、そこまで大きな影響はなかったと考えます。

例年の通り人数の少なくなる 8・1 月には、前年（令和 5 年度）から大幅な減少が見られましたが、令和 4 年度との比較ではあまり大きな差異はありませんでした。台風や積雪時のキャンセルなどもあり、降水量・気温など天候の影響も大きいと考えます。

会議室 1 と 2 の同時利用でお互いの声が聞こえてしまうなど、前年からある音漏れの問題には、必要な場合は少人数でも会議室 1・2 を一続きで利用してもらえよう引き続き呼び掛けをしました。しかし、和室の利用を好まない・利用人数などの関係で片方だけの利用にする等の声もあり、実際に利用してみて、やはり音や声が気になったという意見が多くありました。そういった団体からは、次回からは続き間でとるという声が聞かれましたが、体操と食事利用など、組み合わせによっては互いに上手に利用してもらっている団体もありました。

印刷機利用は大幅な減少が続いています。安価なネット印刷や、SNS 発信にシフトしている団体もみられ、それらについての相談に乗ることも増えました。しかし、社会福祉協議会の輪転印刷機がなくなったこともあり、印刷機があるから定期発行ができるという声も確かにあるため引き続きサービスの継続を行いたいと考えます。

時代の変化に対応しながら、現在利用していただいている団体のニーズに応え続け、新たな館の活用については今後も模索し続けたいと考えます。

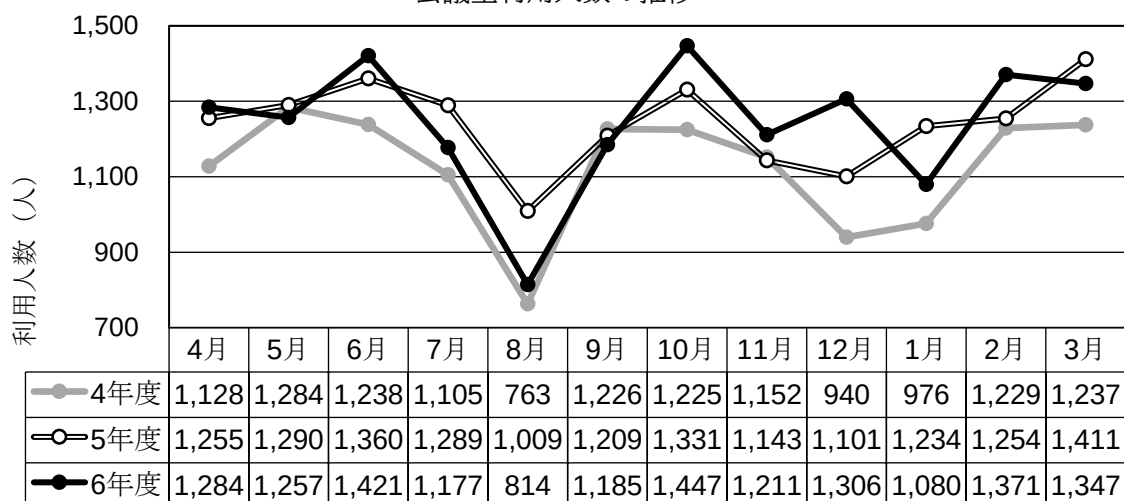
会議室の利用時間区分と定員

	利用時間区分（コマ）	会議室定員	その他
令和 4 年 1 月～	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00	会議室 ABC：34 名 （※AB22 名・C12 名） 会議室 D：10 名 和室： 8 名 ※令和 5 年 1 月から AB・C 分 割利用が可能となった	連続利用：3 コマ（4 時間半） 特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限
令和 5 年 1 月～	⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00		特例利用で以下利用可 ・講義形式での利用で定員を上限 ・部屋間の往来 ・同室の 1 日 4 コマ以上の利用 ・会議室内での飲食
令和 5 年 5 月 8 日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30 ⑫20：30～21：30	会議室 ABC：51 名 （AB33 名・C18 名） 会議室 D：15 名 和室：16 名	新型コロナウイルス感染症が、 5 類へ移行となり、それまで利 用していた感染症対策ルールに ついて撤廃した。
令和 6 年 4 月 1 日～	午前 ①9：00～10：00 ②10：00～11：00 ③11：00～12：00 ④12：00～13：00 午後 ⑤13：00～14：00 ⑥14：00～15：00 ⑦15：00～16：00 ⑧16：00～17：00 夜間 ⑨17：30～18：30 ⑩18：30～19：30 ⑪19：30～20：30	会議室 1・2：51 名 （1：33 名・2：18 名） 会議室 3：15 名 和会議室：16 名	閉館が 21 時となり、20：30～ 21：30 のコマがなくなった。

会議室等の利用状況

	R6 年度	R5 年度	R4 年度
開館日数	357 日	357 日	357 日
会議室利用人数	14,900 人	14,886 人	13,503 人
利用件数（コマ数）	5,116 件	5,179 件	3,319 件
利用率（設定されたコマ数（時間 帯）に対して利用があったコマ数 の割合）	午前 54.2%	午前 50.2%	午前 44.2%
	午後 51.8%	午後 52.9%	午後 46.0%
	夜間 18.0%	夜間 17.8%	夜間 13.1%
利用率 （1 件以上の利用があった割合）	午前 94.1%	午前 91.6%	午前 90.8%
	午後 94.1%	午後 93.6%	午後 94.1%
	夜間 61.6%	夜間 61.6%	夜間 56.0%
会議室利用団体数	144 団体	139 団体	143 団体
1 件（1 コマ）あたりの利用人数	2.9 人	2.9 人	4.7 人
印刷機の利用件数	273 件	334 件	420 件
【参考値】 令和 6 年度 施設利用人数合計 18,589 人 内訳 会議室利用人数 14,900 人 サロン利用者数 3,250 人 印刷室利用人数 439 人			

会議室利用人数の推移



会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 1・2	会議室 1	会議室 2	会議室 3	和会議室	合計
利用 人数	R6 年度	8,842 人	8,493 人	8,499 人	3,703 人	2,355 人	14,900 人
	R5 年度	8,901 人	8,407 人	8,434 人	3,797 人	2,188 人	14,886 人
	前年比	99.3%	101.0%	100.8%	97.5%	107.6%	100.1%
	R4 年度	8,446 人			3,495 人	1,562 人	13,503 人
利用 件数	R6 年度	2,024 件	1,944 件	1,957 件	1,764 件	1,328 件	5,116 件
	R5 年度	1,991 件	1,832 件	1,863 件	1,929 件	1,259 件	5,179 件
	前年比	101.7%	106.1%	105.0%	91.4%	105.5%	98.8%
	R4 年度	1,445 件			1,192 件	682 件	3,319 件

会議室の利用率（日数ベース）

利用 率	会議室 1・2			会議室 1			会議室 2			会議室 3			和会議室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R6 年度	75.6%	78.7%	42.3%	73.9%	76.8%	39.8%	74.2%	77.0%	40.3%	71.7%	75.6%	31.4%	69.5%	56.3%	9.5%
R5 年度	70.9%	77.9%	41.2%	66.1%	72.5%	37.0%	68.1%	71.1%	39.8%	73.9%	79.6%	37.5%	55.7%	57.1%	10.9%
前年比	106.7%	101.0%	102.7%	111.9%	105.9%	107.5%	109.0%	108.3%	101.3%	97.0%	95.0%	83.7%	124.7%	98.6%	87.4%
R4 年度	80.7%	77.9%	36.7%							68.1%	79.6%	28.6%	46.2%	47.1%	6.4%

※1 件以上の利用があった場合に計上。※R6 年 3 月は団体専用事務室の移転作業で半月利用不可となった。

会議室の利用率（コマ数ベース）

利用 率	会議室 1・2			会議室 1			会議室 2			会議室 3			和会議室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R6 年度	58.2%	61.6%	29.3%	56.1%	59.2%	27.8%	56.2%	59.7%	28.1%	53.9%	55.0%	19.5%	50.7%	38.7%	5.2%
R5 年度	53.6%	60.3%	25.6%	49.7%	55.7%	22.9%	51.3%	54.7%	24.5%	54.5%	58.6%	22.0%	42.5%	39.7%	6.0%
前年比	108.6%	102.1%	114.5%	112.9%	106.2%	121.5%	109.6%	109.2%	114.7%	98.8%	93.9%	88.7%	119.3%	97.4%	87.1%
前年比	108.6%	102.1%	114.5%	112.9%	106.2%	121.5%	109.6%	109.2%	114.7%	98.8%	93.9%	88.7%	119.3%	97.4%	87.1%
R4 年度	57.3%	56.6%	21.0%							44.4%	52.1%	14.8%	30.9%	29.2%	3.5%

※利用時間の区分に対してのコマ数を計上。R6 年 4 月からの区分は、午前 ①9:00～10:00 ②10:00～11:00 ③11:00～12:00 ④12:00～13:00、午後 ⑤13:00～14:00 ⑥14:00～15:00 ⑦15:00～16:00 ⑧16:00～17:00、夜間 ⑨17:30～18:30 ⑩18:30～19:30 ⑪19:30～20:30 (R5 年度は⑫20:30～21:30 もあり)
 ※R4 年度は会議室 AB・C の区分けなし。※R6 年 3 月は団体専用事務室の移転作業で半月利用不可となった。

(2) 市民サロン運営実績について

本年度は、ワンデイシェフ 4 団体のスタートでしたが、最終的には 7 団体となり、後述のにぎわい交流館を合わせて計 8 団体でのランチ営業を行いました。予約数が多すぎて 2 か月に分散する団体、メンバーの都合で予定通りに開催ができなかった団体、農政課の補助金事業として期間限定で利用する団体、令和 7 年度から本格的に始めるためのトライ期間を持つ団体など様々な利用となりました。

また、「にぎわいおひるごはんの日」を団体の利用のない木曜日（基本第 3・4・5 木曜日）に、にぎわい交流館が自主事業でランチ提供をはじめました。

ランチ提供食数は、3,250 食（105 日間）となり、前年（74 日間）より大幅に増加しました。食数は団体間で大きくばらつきがあり 1 日当たりの平均食数は 31 食と前年度からやや減少しました。

団体数が増加し、飲食ができることが徐々に浸透した一年となりました。花菜豆など利用客が多い場合は会議室を食事場所として活用することもあり、利用団体による会議室での飲食が可能ということも、改めて周知ができました。

新しい団体が加わり全体的には活気づいていましたが、団体のスタッフの確保が難しい等の理由で急にお休みになることも多く、お客様にご迷惑をおかけする場面もありました。この一年、告知に関しては有料の LINE 公式アカウントを利用したことで、細かく配信を行うことができました。

マーケットは、昨年に続き 7 団体すべてから利用申請があり、途中申請 1 団体を合わせ 8 団体となりました。申請のみで休止の続いたところが 2 団体ありました。長く続けていただいている団体が多く、市民の方からの開催についてのお問い合わせも多かったです。担当者が超高齢となった・スタッフが配置できないなど、本年度の開催をもって終了となる団体もありました。

ギャラリーの開催回数は 22 回で、前年度より微減しました。前年度来館者へアピールできたこともあり、2024 わいフェス実行委員企画の展示として「平和への願い」「2030 へ手紙を書こう」を参加型で開催しました。2 月後半の「シルバー人材センターカルチャー講座」は出展者の都合で急遽キャンセルとなりました。前年のにぎわい文化発表会の展示発表を、本年度はギャラリーでの展示とし、市民まつりまでの長めの期間を多くの方に見ていただけました。

展示期間等のルールもすっかり浸透し、期間の半分で作品の入替を行う、電飾などアレンジして利用していただく場面もありました。また毎年の展示について尋ねられる方もありました。

	ワンデイシェフ						ギャラリー		
	食数（食）			1 日平均食数（食）			展示回数（回）		
	6 年度	5 年度	4 年度	6 年度	5 年度	4 年度	6 年度	5 年度	4 年度
4 月	204	285	135	34.0	19.0	27.0	2	2	2
5 月	253	272	176	25.3	22.7	25.1	2	2	2
6 月	232	206	134	29.0	25.8	26.8	2	2	2
7 月	239	111	97	39.8	27.8	19.4	5	2	2
8 月	197	103	53	24.6	20.6	13.3	1	3	3
9 月	357	113		39.7	16.1		1	2	1
10 月	278	266	289	39.7	38.0	24.1	2	2	2
11 月	400	164	320	40.0	32.8	24.6	2	2	3
12 月	198	208	140	49.5	41.6	23.3	2	2	1
1 月	213	54	137	35.5	54.0	22.8	0	1	1
2 月	297	90	184	22.8	45.0	23.0	1	2	2
3 月	382	129	266	21.2	43.0	26.6	2	2	2
合計	3,250	2,001	1,931	31.0	32.2	23.3	22	24	23

(参考) 利用者アンケートの結果

1. 来館者の属性

	女性	女性割合	男性	男性割合	その他	その他割合	年代別計	年代別割合
20 歳未満	6	50.0%	6	50.0%			12	14.3%
20 歳代	2	33.3%	4	66.7%			6	7.1%
30 歳代	3	100.0%	0	0.0%			3	3.6%
40 歳代	11	100.0%	0	0.0%			11	13.1%
50 歳代	12	75.0%	3	18.8%	1	6.3%	16	19.0%
60 歳代	7	87.5%	1	12.5%			8	9.5%
70 歳代	10	66.7%	5	33.3%			15	17.9%
80 歳以上	8	72.7%	3	27.3%			11	13.1%
年齢不明	1	50.0%	1	50.0%			2	2.4%
合計	60	71.4%	23	27.4%	1	1.2%	84	100.0%

2. 来館頻度

	人数	割合
ほとんど毎日	4	4.8%
週に数回程度	10	11.9%
月に数回程度	29	34.5%
年に数回程度	17	20.2%
今日はじめて来た	24	28.6%
無回答	0	0.0%
合計	84	100.0

3. 来館目的（複数選択可）

	人数	割合
会議室・事務室・印刷機	13	13.3%
ボランティア相談	1	1.0%
ワンデイシェフ(ランチ・喫茶)	33	33.7%
ギャラリー	3	3.1%
バス定期券購入	1	1.0%
打ち合わせ	15	15.3%
待ち合わせ	2	2.0%
バス待ち	9	9.2%
情報収集	6	6.1%
にぎわいドリンク	2	2.0%
サロン休憩	11	11.2%
マーケット	2	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	98	

4. 満足度

		人数	割合
館内は清潔に保たれている	そう思う	60	71.4%
	ややそう思う	19	22.6%
	あまり思わない	4	4.8%
	思わない	0	0.0%
	分からない	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
スタッフの対応は親切だ	そう思う	66	78.6%
	ややそう思う	16	19.0%
	あまり思わない	1	1.2%
	思わない	0	0.0%
	分からない	1	1.2%
	無回答	0	0.0%
館内の雰囲気が良い	そう思う	55	65.5%
	ややそう思う	27	32.1%
	あまり思わない	2	2.4%
	思わない	0	0.0%
	分からない	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
情報提供は充実している	そう思う	42	50.0%
	ややそう思う	26	31.0%
	あまり思わない	2	2.4%
	思わない	0	0.0%
	分からない	11	13.1%
	無回答	0	0.0%
ホームページは充実している	そう思う	19	22.6%
	ややそう思う	24	28.6%
	あまり思わない	2	2.4%
	思わない	1	1.2%
	分からない	32	38.1%
	無回答	0	0.0%
今後もこの施設を利用したい	そう思う	61	72.6%
	ややそう思う	18	21.4%
	あまり思わない	0	0.0%
	思わない	0	0.0%
	分からない	2	2.4%
	無回答	0	0.0%

1 階サロン利用者へのアンケート
(令和 6 年 8 月・7 年 2 月) より

(3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は3月末時点で274団体であり、登録取消件数は53件で、登録数・取消数ともに減少しましたが、差し引きは32件の減少となりました。前年度末に登録更新の時期を迎え、更新しなかった団体の取消が4月に計上されたため、大幅な減少となりました。「保健・医療・福祉」「子ども健全育成」の分野が多く登録されました。

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
令和4年度	29	9	20	287
令和5年度	22	3	19	306
令和6年度	21	53	-32	274

(4) 相談対応について

期間中に対応した相談は397件でした。相談の多かった前年度（384件）と比べて、さらに約3.4%上回りました。

相談者の内訳は、「登録団体」が41.6%で最多となりました。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多、次点が「館の運営・事業について」「団体について知りたい」となりました。レクリエーションをボランティアで行う団体・語学や趣味の団体・農業や学習支援など特定のジャンルの団体を探しているという相談が多くありました。団体から団体への寄付や音楽の利用がしたいという相談も目立ちました。また、SNSについてのほか、パソコンのトラブル・写真撮影やデータ移行についてなどデジタルデバイス関連でいくつも相談がありました。市民自治活動推進補助金事業については事業をまとめるところから成果報告書の作成まで、その都度相談にのり伴走した団体もありました。記録には残っていませんが、わいわいフェスティバル・ランチ・にぎわいおひるごはんの日の給食メニュー・喫茶の提供や、にっしんシニアパス75等くるりんばすに関する問い合わせも一年を通して多くありました。

相談者の分類			相談内容の分類		
登録団体	165	41.6%	施設利用・団体登録したい	91	22.9%
市民	153	38.5%	館の運営・事業について	58	14.6%
未登録の団体	42	10.6%	団体について知りたい	51	12.8%
行政・学校等	24	6.0%	講座や団体を探している	31	7.8%
企業	13	3.3%	助成金・資金調達について	25	6.3%
社協	0	0.0%	その他	141	35.5%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

(5) 主な事業の進捗状況

【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわいNEWS (Vol. 28) (Vol. 29)	令和6年9月 令和7年1月	発行部数 各2,000部
	市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。特集のインタビュー記事を中心に構成。地区回覧がないため、団体への配布数を増やし、団体の名刺代わりにご利用いただいた。にぎわいでも祭り等で配布するなど、少しでも見てもらえるよう心掛けた。		

	事業名	日程	参加者数等
	Vol. 28 集まれ 90 代！ シニアライフをアクティブに 渡邊 仁司さん（日進植物画教室・天白川で楽しみ隊・日進自然観察会） 出原 伸平さん（日進里山リーダー会） 水谷 淑子さん（にぎわい句座） 島並 小枝子さん（菖蒲の会） Vol. 29 災害ボランティアについて考える 藤井さん・奥家さん（日進災害ボランティアコーディネーターの会）		
2	イベントカレンダー	月 1 回	発行部数 150 部
	登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月 1 回市内公共施設に配架する。当初の計画通り発行。掲載する情報が少ないこと・残部数が多いことなどもあり、今後はデザインを一新し、情報発信の形態を検討していきたい。		
3	にぎわい団体帖	令和 6 年 10 月発行	掲載団体 264 団体 発行部数 20 部
	市民活動団体の認知度向上・市民活動への参加促進のため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作した。市内公共施設等への印刷物送付やウェブサイトの公開を行った。		
4	にしんわいわいフェスティバル 実行委員会事務局	《令和 6 年度開催》	
		会議等 令和 6 年 4 月～8 月 開催 7 月 6 日（土）	実行委員 5 人 出展団体 83 団体 来場者 約 1,050 人
		《令和 7 年度開催》	
		実行委員募集 9 月 会議等 10 月～令和 7 年 3 月 （7 月 5 日（土）開催。ふり かえりまで継続）	実行委員 4 人
		実行委員会などの会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など、運営のための事務を行う。 わいフェス 2024 は、主催を市とし、市と実行委員会の協働開催となり、市民自治活動を推進・支援していくために開催するイベントとして、より市民活動が伝わる形式を模索し発展させた形態を提案した。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流も図った。当初の計画通り実施。出展団体アンケートでは昨年よりも高い評価を得られた。一方で、準備撤収など開催までの運営の仕方についての意見もあり、今後の検討課題となった。学生ボランティアが多く企画の手伝いもしていただいた。わいフェスで上映した映画の再上映希望などもあり、後日にぎわい交流館でアフタープログラムとして開催した。わいフェス 2025 では、市民活動やまちづくりを日進市で繋いでいくために、次世代の担い手である「家族・子ども・若者」の来場増加が必要不可欠であると判断し、楽しみながら、市民活動にふれることができるわいフェスを目指すことになった。メインの対象が変わったこと、改修工事で大ホールが使えないために会場が狭くなることや、広報にしんの掲載ページ数の減少など、例年からの変更箇所が多いこともあり、出展申込団体は 70 団体に留まる。しかし、募集説明会の参加方法に、新たに動画視聴を加え、各団体のニーズに臨機応変に対応している。実行委員は日頃から子ども・若者に親しむ団体の方が集まり、前回から 3 人が続投、新たに 1 人が加わり、新たな体制で丁寧な話し合いができています。	

	事業名	日程	参加者数等
5	地域環境円卓会議（団体向け講座）	Step1.令和6年12月15日（日） Step2.令和7年2月2日（日） Step3.令和7年3月16日（日）	14人（13団体） 22人（14団体） 15人（11団体）
	地域課題の解決や将来像の模索のために対話し、協働するまちづくりの場。本年度、私たちの生活すべての土台となる「環境」をテーマとし、Step1.は、まちづくりに関わる多様な団体が出会い日進市の魅力や課題についてつながりながら考えるワークショップを行った。Step2.では、具体的に「誰と何ができるか」を念頭に、異なる団体同士の『マッチング』を行い、どの団体と協力できそうか考えた。Step3.では、これまでの出会いを踏まえて、協力・実施する事業を具体的に考え発表し合った。当初の計画より時期をずらして実施。		
6	もうちょっと上手になりたい人の Word・Excel・PowerPoint ミニ講座（団体向け講座）	令和6年9月12日（木）	6人（3団体） PowerPoint…5人 Excel…5人 Word…4人
	普段事務や広報のために利用しているアプリで、“もうちょっと良いものにしたい”けれどもうまくいかないという団体の悩みの解消を図り、団体内・外へのスムーズな情報発信を可能にし、にぎわい交流館で気軽に相談ができることを知る。Microsoft アプリの簡単な操作方法をおさらいしながら、コワーキング形式で実際に操作を行った。質問し、他の参加者も同時に聞くことで知識の再確認をすることをねらいとした。スタッフ用の研修の予定だったが、複数団体から学びたいという声が上がリ講座を行うことにした。当初の計画にはなかったが実施。		
7	にっしん市民まつり にぎわい交流館ブース	令和6年11月17日（日）	ブース出展 出展団体 13団体 来場者 1,713人 （出展団体からの報告の合計）
	市民活動団体によるブース出展（屋外 13 ブース、ワンデイシェフ 1 団体）を開催した。また、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。ブース出展の来場者数はコロナ禍前（令和元年）の 8 割程度、販売金額も 7 割程度に回復した。出展団体の満足度はとても高く、当初の目的はおおむね達成できた。市民サロンでは「にぎわい文化部発表会の展示発表」が開催最終日となっており、展示発表は 8 団体だった。		
8	にぎわい文化部発表会	展示発表：令和6年11月2日（土）～17日（日） ステージ発表：令和6年11月10日（日）	ブース出展 展示 8 団体 ステージ発表 8 団体
	にぎわい交流館の認知度向上、また、音楽を復活させ、にぎわいを取り戻す目的で、市民活動団体の活動発表の場として実施した。展示は既存のギャラリー利用期間を超過して設定し、最終日の市民まつり当日にはたくさんの来館者に見ていただけた。ステージでは集客において団体との調整が必要と感じる部分もあり、にぎわいの負担を考えた開催継続の形態を模索していきたい。もっと出展団体同士の交流をしたいと望まれる声もあり、次年度以降に検討していきたい。		

	事業名	日程	参加者数等
9	日進のソーシャルグッドをつくる人（市民向け講座）	令和6年10月19日（土）	参加者数 21人
	社会課題を解決に導くためには、どんな人にも社会に目を向け自分達でまちをつくらうという気持ちを持ってもらうことが必要であり、そのような機運を醸成したいと考えた。そのため、にぎわい交流館の登録団体ではないが、自分が感じる社会課題に主体的に楽しく取り組んでいる人を講師に迎え、まちづくりや市民活動に対するイメージの変革を図り、まちづくりについて考え実践することを、生き方の一つの選択肢としてもらうことを目的とする。放置山林を購入し社会問題の解決を図る取り組みをしている長尾仁哉さんをゲストスピーカーに招いた。参加者アンケートの結果から、日進に面白い人や頑張っている人がいるということが、同じ日進で暮らす別の人のモチベーションにつながるのだと感じた。今回の参加者の最年少である8歳の子は「内容はわからなかった」というものの、最後に講師から直接話しかけてもらえるなどして嬉しそうにしていた。他の参加者についても講座終了後に講師と直接話をしている様子が見られ、講話を聴くだけで終わらない学びやつながりを、このイベントの中で作れたと考える。		
10	団体交流会	令和6年6月23日（日）	参加者 22人 （10：00～17人、12：00～0人、14：00～5人）
	にぎわいを拠点にした団体同士のつながりを生み出すため交流会を開催した。気軽に参加できる体制を整えるため、わいフェス 2024 直前説明会開催と同日開催し、集客の効果が期待できるかを試す機会とした。模造紙を自由に使用してもらい、各団体の告知などに利用して頂いた。わいフェスのついでに寄ったという前年度不参加の団体や大学の先生などの飛び込みもあり、一定の効果はあった。その半面で、やはり参加の分散があり全員が一堂には会することはできなかったこと、12時の回の参加がなかったことから設定の課題も見えた。今後の団体交流会の企画時の参考にしたい。市民活動やまちづくり全体についての意見もあり、広い視点で考えていただける方の存在を知ることができた。他団体とつながれたと喜んでいただき、団体同士のつながり作りに寄与できた。		
11	友好自治体フェア	令和6年8月・12月	
	友好自治体(木祖村、志摩市)との連携、ワンデイシェフの利用促進、来館者増加が目的。木祖村フェアは市民協働課によって、にぎわい交流館でのギャラリー展示と会議室を利用した木祖村野菜産直フェアが実施された。志摩市・姉妹都市のオーエンズボロ市のギャラリー展示では、志摩市の美しい写真を展示するとともに、オーエンズボロ市から贈られたクリスマスカードの展示装飾を行った。ワンデイシェフによる友好自治体PRは担い手不足のため未実施。		
12	ウェブサイト（リニューアル）	通年	
	スマートフォンでの閲覧や、市民の関心事項にアクセスしやすいウェブサイトを目指し、リニューアルを行う。登録団体やイベント、館内のワンデイシェフ・ギャラリー・マーケットなどの情報を市民に分かりやすく記載する。全面リニューアル作業中。4月運用開始。		

	事業名	日程	参加者数等
13	U25 限定講座 わたしとみんなの 困りごと（市民向け講座）	令和7年2月22日（土）	6人 （中学生3人・大学生 2人・社会人1人）
	次世代のまちづくりの担い手づくりのため、生活の中で感じる違和感に蓋をせず考えてみようとする若者を増やす。みんなの困りごとと自分の困りごとを並べて、社会のあり方を考えるきっかけとし、これからの生き方についてのヒントにしてもらう企画。「読みたい本がない」ということがきっかけとなり本屋を始められた ON READING 黒田さんをゲストにお迎えし、お話を伺った。参加者から出た「困りごと」とそれに対するコメントをまとめて冊子を作り、にぎわい交流館と日進市立図書館、日進市民会館に配架した。		
14	広報にしん記事制作（中止）	年1回	
	にぎわい交流館の周知のため広報にしんに情報掲載を行っていたが、紙面削減のため中止した。今後はウェブサイトや各 SNS での発信に力を入れたい。		

【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にぎわい夜桜会	令和6年4月6日（土）	参加者 24人（提灯作り：11人 喫茶利用9人）
	にぎわい交流館の利用を促進する目的で実施。夜桜観賞や提灯作成のワークショップ・喫茶提供を行い、憩いの場として楽しんでいただけた。にぎわい交流館が初めての方もたくさん来館されて、にぎわい交流館を知ってもらえる場となった。団体からの自発的なボランティア参加もあり新規団体の交流の場ともなった。		
2	事業報告・説明会（前ページの団体交流会と共に実施）	令和6年6月23日（日）	参加者 22人（10：00～17人、14：00～5人）
	登録団体に対して、にぎわい交流館の前年度の事業成果について報告するとともに、本年度の事業計画について説明することにより、にぎわい交流館への理解を深めてもらう機会として団体交流会と共に実施した。刷新された印刷機やコピー機の利用方法などについて質問があり、使ってみようという意見もあった。		
3	お子様弁当無償提供事業等に関する登録団体のサロン棚利用	令和6年8月（5日間）	利用団体 2団体
		令和5年12月～令和6年1月（4日間）	利用団体 2団体
4	全国チェーンの飲食店が無償提供する弁当を子育て家庭に配布するため、「にぎわいマーケット」の行為許可に準じて、市民サロンの棚を貸し出した。前年に続き、団体のニーズに合わせて実施した。		
	にぎわい夢まつり	令和6年9月15日（日）	出展団体 9団体 ブース来場者 1,209人 （出展団体からの報告の合計）

	事業名	日程	参加者数等
	市民活動団体によるブース出展（8 ブース 8 団体）のほか、日進絆子ども食堂による飲食提供（アジパンダ食堂）、にぎわい交流館によるドリンク販売を行った。来場者は昨年とほぼ同等、販売金額は 1 割程度向上と好調な結果となった。出展団体の満足度もかなり高く、当初の目的はある程度達成できた。にぎわいドリンクは昨年の結果を活かしペットボトルの種類を少なくして仕入れ、完売となった。		
5	にぎわいおひるごはんの日	通年	757 食（27 日）
	ワンデイシェフが少ないため、実施がない日に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。当初団体支援や市民活動啓発の場になるように登録団体との協力を想定したが、金額や時期の問題もあり難しかった。学校給食課からのオファーで小中学校の給食を再現するメニューを夏から開始し、カレーライスやキムタクご飯・木祖村産御嶽白菜を利用した中華丼の提供を行った。		
6	小さな団体のための個人情報保護講座（団体向け講座）	令和 7 年 2 月 9 日（日）	25 人（16 団体）
	市民活動団体が扱う「個人情報」はたくさんあるが、任意団体であっても法令に沿って正しく取り扱う義務がある。そのため、法の規定の意図や、市民活動団体が取り組むべきことを初歩から説明して学ぶ講座。講義と共に団体の現状を知り、団体内でどう活用するか考えるきっかけをつかむワークを行った。団体内で話題にあがったり、方針を見直すきっかけになった団体もあった。スタッフも研修として 9 名参加した。講師は個人情報保護士の鈴木孝廣さん。		

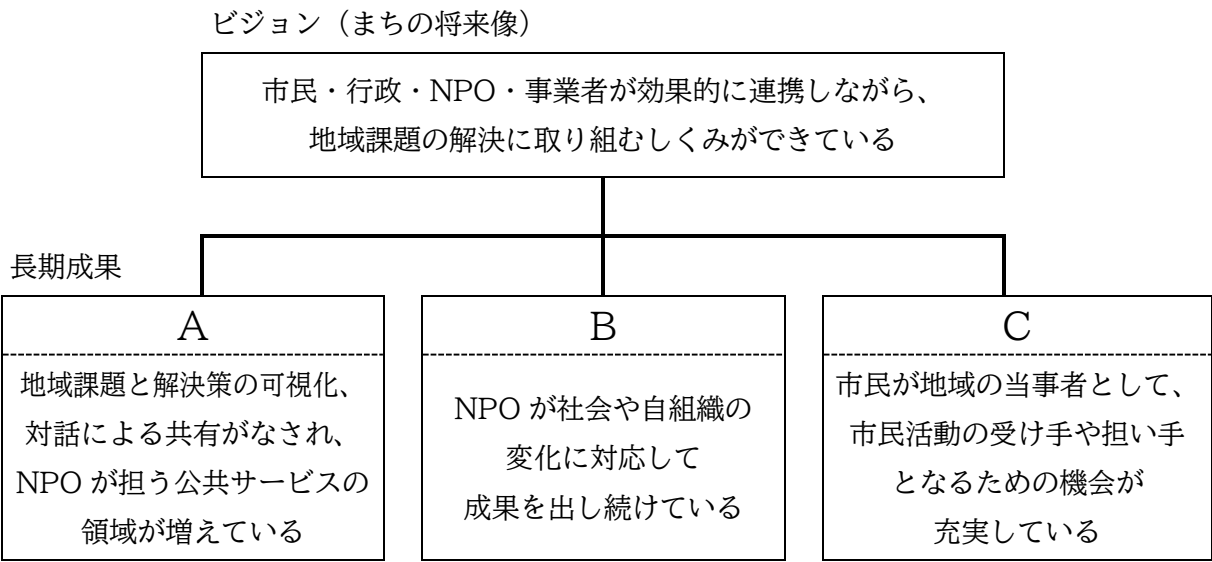
その他特記事項（抜粋）

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月 1 回を目安に、12 回実施
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加
- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター事業への参加……にっしん地域支え合い円卓会議等
- 子どもの支援を考える会……「子ども食堂・フードパントリー」の立ち上げ講座等情報共有
- にっしん観光まちづくり協会参加……2 回（総会、理事会 1 回）
- わたしのまちのしあわせづくり委員会……4 回
- にっしん助け合いリビングラボ……全 5 回終了。参加チームでの実践参加 4 回
- 防災交通課移動政策室……のりものカード配布・石田彰さんの名入りクリアファイル配付
- 公益財団法人とよしん育英財団表彰……自薦 4 団体を推薦、「日本舞踊瑞鳳流瑞鳳会」が授賞
- 生ごみ処理機（環境課）モニター設置終了
- 平和のつどい講演参加
- 日進市新規採用職員研修……講師として参加
- 『市民活動センターの役割と評価を考える』アンケート調査に回答。愛知県内市民活動支援センター情報交流会世話人有志の会（窓口：ボランティアネイバーズ）
- ボランティアネイバーズ読書会（勉強会）に参加
- 愛知淑徳大学 CCC……コラボメッセに参加
- 愛知学院大学リサーチプロジェクトへの協力……講義・発表見学等
- 名古屋学芸大学 SLC 訪問……「スペシャルニーズの子と共に育む会スマイル」と共にボランティア連携相談
- 名古屋学芸大学教職映画上映会参加 映画『生きる～大川小学校津波裁判を闘った人たち』を忘れない
- 愛知学院大学「共働き前提世代の子育てを地域で支えるには？」参加・広報協力
- 名古屋商科大学……インタビュー、相談
- 職場体験……日進西中学校・北中学校・東海学園高校（アスクネット）の受け入れ
- アジア保健研修所（理事として参加）
- ……小学 6 年向け出前講座プログラム作り手伝い、ガザ報告会参加
- 福祉まちづくり座談会（わたしのまちのしあわせづくり委員として参加）……6 回
- 日進市市民自治活動推進補助金……成果報告会・募集説明会傍聴

2. 令和 7 年度にぎわい交流館運営計画について

(1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成 29 年度から掲げてきたビジョンについて、令和 4 年度に小幅の見直しを加えて使用しています。使用期間は第 6 次日進市総合計画（以下「6 次総」）の中間目標年に合わせ、令和 7（2025）年度までです。



	長期成果に対する 数値目標 (R7 年度)	直近の実績	6 次総 2025 年の 目標値等	所感
A	行政と NPO の 協働事業件数 120 件	99 件 (R3) 116 件 (R4) 117 件 (R5)	108 件	協働事業件数は増加傾向が続く。今 後も、新たな協働を創出する環境づ くり努めたい。
B	にぎわい交流館 登録団体数 300 団体	306 団体 (R6 年 3 月) 274 団体 (R7 年 3 月)	327 団体	高齢化などにより活動を休止する 団体はあるが、新規登録もあり、全 体では増加傾向にある。令和 5 年 度に継続意向調査を行い 48 件が 登録取消となった。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 20%※	15.2% (R2) 15.6% (R4) 18.9% (R6)	20%	寄せられる相談からも、ボランテ ィアに参加する意欲のある市民が 増えてきている印象がある。今後 も情報発信に努めたい。 ※ 2 年に一度の市民意識調査での計測 を継続する。

(2) 受託事業および自主事業

分類	事業名		受託／自主
施設管理・ 利用許可等		会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録、調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー 施設管理（清掃、警備、植栽管理など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
	(1)	喫茶提供、にぎわいドリンク にぎわいおひるごはんの日	自主事業
相談窓口	(2)	相談対応	受託事業
		事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(3) (4) (5) (6) (7)	市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわいNEWS（2回） にぎわい団体帖（1回） ウェブサイト SNS 運用 （Facebook、X、Instagram、LINE 公式アカウント等） メールマガジン イベントカレンダー（月1回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用したPR	受託事業
講座・ イベント等	(8) (9) (10) (11)	わいわいフェスティバル実行委員会事務局 団体支援事業（団体交流会含む） 市民活動啓発事業 にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース） 友好自治体に関する情報収集・PR	受託事業
	(12) (13)	にぎわい夢まつり にぎわいさくらの日	自主事業
会議等への参 加、関係機関 との連携		にっしん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） わたしのまちのしあわせづくり委員会 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換 等	受託事業

※番号のある事業は、次ページ以降に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(1)	にぎわいおひるごはんの日	通年	自主事業	C
	ワンデイシェフの営業がない日（現状は第 1・3・4・5 木曜日）に、にぎわい交流館スタッフによる手作りのランチを販売する。学校給食課のオファーによる給食メニューは月に 1 回提供。継続。			
(2)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。相談の内容により、専門家への相談につなげる。継続。			
(3)	にぎわい NEWS	年 2 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙を制作する。各号のテーマは、活動分野やターゲットとなる層のバランスを考慮して選定する。20 周年特大号を企画検討中。継続。			
(4)	にぎわい団体帖	1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、全団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(5)	SNS 運用	通年	受託事業	C
	これまで運用していた、Facebook ページ、X、Instagram、LINE 公式アカウントに加え、note の運用を開始した。ウェブサイトのリニューアルに伴い goo ブログから note に変更し、読みたい情報を届ける工夫を考える。継続。			
(6)	メールマガジン	月 1 回	受託事業	C
	ウェブサイトへのアクセスを促す形へ html メールヘリリニューアルし、イベントや助成金情報等を月 2 回配信する。4 月より形を変えて継続。			
(7)	イベントカレンダー	月 1 回	受託事業	C
	登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月 1 回市内公共施設に設置していたが、掲載する情報が少ないこと・残部数が多いことなどもあり、今後は情報発信の形態を検討。画像を取り入れカラーでの配布など形態を模索しながら継続。			
(8)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年（7 月 5 日（土）開催）	受託事業	C
	2025 年度は次世代の担い手である「子ども・若者」が楽しみながら、市民活動にふれることができるイベントとして目標設定された。事務局として、会議の設計・進行、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など、運営のための事務を行う。出展団体(テーマ型団体、地縁型団体、大学・学校、企業、行政)間の交流・連携を図る。市民会館の工事に伴い縮小した形で実施予定。継続。			

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(9)	団体支援事業	1 回以上	受託事業	A・B
	団体のニーズに沿った講座やイベントの企画、団体間の交流やネットワークづくりの支援をする。今年度は福祉をテーマに「地域円卓会議」に類した市民活動の課題解決や目標にむけての取組を支援する交流会を行う。また事務支援講座なども検討する。継続。			
(10)	市民活動啓発事業	1 回	受託事業	C
	若者やにぎわい交流館に来館したことがない市民にアプローチする企画を行い、市民活動の裾野を広げ活動の多様性を創出する。「日進のソーシャルグッドをつくるひと」の第3弾や、若者企画として定期的に集える企画などを検討。継続。			
(11)	にっしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）	1 回（11 月）	受託事業	C
	にっしん市民まつりの一環で開催し、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(12)	にぎわい夢まつり	1 回（9 月）	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。継続。			
(13)	にぎわいさくらの日	1 回（4 月 6 日（土）実施）	自主事業	C
	にぎわい交流館の利用を促進する目的で実施。昨年の夜桜鑑賞からリニューアルし、昼間から企画、前年度より内容を変えて継続。昨年同様手製の提灯を飾り、栈敷席を用意した。揚げパンの販売やハーバリウムのワークショップ、子ども向けのミニゲームなどを用意し、67 名の参加があった。昨年ボランティアで手伝ってくれた団体が今年度も積極的にボランティア参加し、参加者とも交流を深めた。			
(14)	にぎわい交流館 20 周年事業	通年	自主事業	A
	R7 年 11 月 19 日に 20 周年を迎えるにぎわい交流館。これまでの 20 年を振り返りこれからを考える交流会や、館内案内・設備のリニューアルなど行い新しいにぎわい交流館を発信する。11 月 19 日～24 日をにぎわい 20 周年 WEEK として、ワンデイシェフを含む様々な団体と共に企画を考え進めていく。新規。			